

## 平成29年度 第6回函館の教育のあり方検討協議会 会議録

日 時	平成29年10月24日(火) 18:30~19:19
場 所	函館市役所本庁舎8階第2会議室
出 席	<p>委 員 田 中 邦 明 (北海道教育大学函館校教授)</p> <p>大 場 みち子 (公立はこだて未来大学教授)</p> <p>齊 藤 緑 (北海道教育大学附属函館幼稚園副園長)</p> <p>山 田 幸 俊 (函館市小学校長会会長)</p> <p>毛 利 繁 和 (函館市中学校長会会長)</p> <p>中 島 悟 (北海道高等学校長協会道南支部長)</p> <p>中 村 和 代 (函館市PTA連合会事務局員)</p> <p>絹 野 重 治 (函館市社会教育委員)</p> <p>竹 内 正 幸 (函館商工会議所事務局長)</p> <p>井 上 実 香 (公募)</p> <p>事務局 辻 俊 行 (教育長)</p> <p>木 村 雅 彦 (学校教育部長)</p> <p>佐 藤 聖智子 (生涯学習部次長)</p> <p>鶴 喰 誠 (生涯学習部次長)</p> <p>寺 本 公 彦 (学校教育部学校教育課長)</p> <p>柴 田 成 (学校教育部学校再編・計画担当課長)</p> <p>村 上 貴 洋 (学校教育部学校教育課主査)</p> <p>松 本 大 (学校教育部学校教育課主事)</p>
欠 席	なし
傍 聴	3名

# 1 開 会

出席者10名。過半数を超えているため、会議成立。

# 2 議 事

## (1) 函館市教育振興基本計画の素案について

(田中会長)

ただいまから第6回の教育のあり方検討協議会となります。今日は最後の回になりました。それでは、次第にしたがいまして議事に入りたいと思います。

前回、素案のたたき台の協議を行いまして、委員の皆さまからたくさんご意見をいただきました。今回が6回目で最後になりますから、たたき台を素案としてまとめるという協議になります。資料1でございます。前回の協議の結果を受けて修正がございますので、事務局から修正点につきましてご説明をお願いします。

(事務局)

資料1 函館市教育振興基本計画(素案)についてご説明申し上げます。前回の協議会においては、素案たたき台を協議いただきました。その後、協議の内容などを踏まえまして、事務局において、文案の一部を修正させていただきましたので、その主な箇所につきましてご説明させていただきます。なお、各ページの左側には行番号を付記しております。

まず、素案全体で共通の視点で修正の検討を行った部分につきましてご説明いたします。大きく2点ございます。

1点目は、前回の協議会におきまして、文章が長くなっているところがあり、短く区切れないかのご意見がございましたことから、素案全体を通じまして、文章を短くしても意味が変わらない部分につきましては、文章を短くするよう修正させていただきました。例えば、9ページをお開き願います。4行目から7行目にかけての文章につきましては、たたき台では、1つの文章となっておりますが、今回、文章を2つに分ける修正をさせていただきました。

2点目は、例えば、同じ9ページの21行目で「取組を進める必要があります。」という部分を、「取組を進めていく必要があります。」とすべきではないかのご指摘がございました。こちらにつきましては、市の他の計画、例えば「函館市基本構想」や「函館市義務教育基本計画」におきまして、「取組を進める必要があります。」といった表現で記載されておりましたので、それらに準じた表現に統一を図っております。

そのほか、素案全体を通して、文言の調整を行ったり、「目指す」という言葉を漢字表記からひらがな表記としたりしまして、より読みやすい文章となるよう、一部の文章を修正さ

せていただきました。

続きまして、個別に修正の検討を行った部分につきまして、順次ご説明いたします。

9ページをお開き願います。21行目の「学習習慣」に「よりよい」などの修飾語をつけてはどうかとのご指摘がございましたことから、「望ましい学習習慣」と修正させていただきました。

10ページの13行目、「習熟の程度に応じた」という部分につきましては、学習指導要領の解説資料などを確認いたしまして、そのままの記載とさせていただきます。16行目の「各教科など」の「など」は削除してはどうかとのご指摘がございましたが、教科以外のものも含んでおりますことから、そのままの記載とさせていただきます。20行目から21行目にかけての「プログラミング的思考」につきましても、学習指導要領の解説資料などを確認いたしまして、そのままの記載とさせていただきます。

14ページをお開き願います。7行目の「インターネット上における不適切な書き込みなど」という部分に関しまして、動画投稿などもあるので書き込みに限定せず、「不適切な利用」とした方がよいのではないかとのご指摘がございましたが、現在、本市が実施している学校ネットパトロール事業の趣旨から考えまして、そのままの記載とさせていただきます。12行目の「考え、議論する道徳」という部分につきましては、たたき台では「考え、議論するような道徳」となっておりまして、「ような」という部分が曖昧な表現であることとご指摘がございましたことから、「考え、議論する道徳」と修正させていただきました。17行目の「自己肯定感や自己有用感」という部分に関しまして、「自己有用感」は「自己肯定感」に含まれるのではないかとのご指摘がございました。「自己有用感」は、「他人の役に立った」、「他人に喜んでもらえた」など、相手の存在なしには生まれてこないという点で「自己肯定感」と異なるという考え方や、「自己有用感」を高めることが「自己肯定感」を高めることにつながるという考え方が国にございまして、「函館市いじめ防止基本方針」などにおきましても、「自己肯定感」と「自己有用感」を併記しております。そのため、本計画におきましても、同様に併記させていただくことといたしました。22行目から23行目にかけての「社会教育施設を活用した鑑賞などの学習活動」という部分につきましては、たたき台では、「社会教育施設などの活用などを通じて鑑賞などの学習活動」となっておりまして、「など」が重複することとご指摘がございましたことから、「社会教育施設を活用した鑑賞などの学習活動」と修正させていただきました。

15ページをお開き願います。5行目の「朝食を欠食する」という部分は、たたき台では、「朝食を毎日食べる」となっておりまして、「朝食を毎日食べる」という表現は「毎日朝食をとる」とした方が適切ではないかとのご指摘がございました。また、全体的に文章が長いこととご指摘もございましたので、4行目から11行目までのとおり修正しております。同様に、12行目から18行目、19行目から25行目につきましても、文章が短くなるよう再

構成しております。

17ページをお開き願います。6行目の「安全教育」に関しまして、防災教育の観点も取り入れるべきではないかのご指摘がございましたが、国の資料などを確認しましたところ、防災教育が「安全教育」に含まれておりますことから、大きな括りを生かす観点で、そのままの記載とさせていただきます。

19ページをお開き願います。5行目から6行目にかけての「幼児教育の質の向上」という部分は、たたき台では「質の高い教育」となっておりまして、「質の高い幼児教育」が適切な表現ではないかのご指摘がございましたことから、「幼児教育の質の向上」と修正させていただきます。

25ページをお開き願います。20行目の「子ども像」という部分は、「児童生徒像」とした方が適切ではないかのご指摘がございましたが、国の資料などを確認しましたところ、「子ども像」が一般的に使用されておりましたことから、そのままの記載とさせていただきます。

27ページをお開き願います。16行目から23行目の間に記載しております「資質能力」につきましては、教員の場合は「・」は不要ではないかのご指摘がございました。国の資料などを確認しましたところ、教員の場合は「・」をつけず、児童生徒の場合は「・」をつける取り扱いとなっておりますことから、そのとおり修正させていただきます。

29ページをお開き願います。4行目の「態度」という部分は、たたき台では「授業態度」となっており、小学校就学直後においては「授業態度」が当然身につけていないとのご指摘がございましたことから、「態度」と修正させていただきます。

33ページをお開き願います。4行目の「生きるうえでの精神的な支え」という部分は、たたき台では「一生にわたって精神的な支え」となっておりまして、「一生」は「生涯」に置き換えた方がよいのではないかのご指摘がございましたことから、学習指導要領の解説資料などを改めて確認いたしまして、「生きるうえでの精神的な支え」と修正させていただきます。20行目の「芸術家、スポーツ選手、研究者」という部分は、たたき台では、「芸術家、スポーツ選手、職人」となっておりまして、「職人」は「科学者」とした方がよいのではないかのご指摘がございましたことから、国の関係資料などを確認いたしまして、「芸術家、スポーツ選手、研究者」と修正させていただきます。

48ページをお開き願います。基本目標6 健やかな心身を育むスポーツの振興につきましては、たたき台におきましては、見出しのみの記載とさせていただいておりました。今回、施策と主な取組の内容につきまして記載させていただきましたので、ご説明させていただきます。

49ページをお開き願います。施策1 スポーツの振興でございます。たたき台におきましては、施策は「生涯スポーツの充実」、「競技スポーツの促進」の2つとしておりましたが、

今回、「スポーツの振興」と1つにまとめさせていただきました。子どもが体を動かす機会が減少していることから、生涯にわたり健康を維持し、健やかな人生を送ることに結びつけるため、子どものスポーツ機会の充実を図ることが求められています。また、市民だれもが、いつでもスポーツや健康づくりに参加できるよう、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進と環境の充実に努める必要があります。さらには、地域を代表する選手が大きな舞台上で活躍する姿は、地域への誇りや活力をもたらすものでありますことから、競技スポーツの促進に取り組む必要があります。こうしたことから、「函館市スポーツ推進計画」を策定し、スポーツの振興に取り組むものでございます。なお、スポーツ推進計画につきましては、函館市スポーツ振興審議会において審議中でございます。

前回資料のたたき台からの主な修正箇所に関する説明は以上でございます。

ここで本計画策定に向けての今後の予定を説明させていただきます。本日の協議会の後、計画素案につきましては、事務局において11月に開催を予定しております教育委員会定例会に素案の決定を付議させていただき、その後、庁内協議を経まして、12月には市民意見を聴取するパブリックコメント手続きを実施する予定でございます。最終的には、3月に改めて計画案を教育委員会定例会において付議し、成案化してまいりたいと考えております。

本日が最後の検討協議会となります。皆さまに改めて最終的なご確認をいただければと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

(田中会長)

ご説明ありがとうございました。

すでに大枠は固まっておりますので、修正箇所の確認にとどめたいと思います。それほど箇所は多くなかったと思いますので、全体を通して修正についてさらにご意見やお気づきの点があれば承りたいと思います。少しお時間をとりたいと思います。これで私どもの手を離れることにはなりますが、いかがでしょうか。

一箇所、できれば変えた方が良く思うところがありました。14ページの2の道徳教育の(4)について、先ほど課長からご説明をいただいて自己肯定感と自己有用感の区別がはっきりわかりましたが、順番として「自己有用感」ができてから「自己肯定感」が形成されていくというご説明であったと思います。そうすると、これは逆の順番の方がより良いと思います。非常に軽微な部分ですがそのように感じました。ご検討いただきたいと思います。

その他、こういう軽微なことでも結構です。

スポーツのところは新しく入ってきました。他の審議会で審議しているところでございますが新しく文章が出てきました。いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、これから庁内協議ということでございますので、まだ修正があるかもしれませんが、もしご質問、ご意見等がないようであれば、これをもちましてこの協議

会の案として確定したいと思います。ご了解いただければと思いますが、よろしいですか。

《委員から「異議なし」の声》

(田中会長)

ありがとうございました。本日のこの会をもちまして、この函館市教育振興基本計画の検討は終了とさせていただきたいと思います。皆さまのご協力によりまして、昨年度来、大変忙しい中、夜遅い時間までお集まりいただきまして本当にありがとうございました。円滑に会議が進行しました。実りの多い議論ができたのではないかと考えています。本当に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

それでは会議の終了に際しまして、委員の皆さまからお一人ずつご感想をいただきたいと思います。いきなりで恐縮ですが、大場委員からお願いします。

(大場委員)

出張等が多く不参加の日もありましたが、その次の協議会に来てみますと、ステージが非常にアップしておりまして、皆さまが活発に議論をなされていて進化したということも感じていました。

自分で見ている視野は非常に狭いということ今回つくづく思いまして、皆さまとともにチェックしあい、意見を出し合ったことが、今回このような充実した内容につながったと思っています。

(田中会長)

ありがとうございます。齊藤委員お願いします。

(齊藤委員)

皆さま、2年間にわたり大変お疲れ様でした。新しいものを作り上げることが、このように非常に労力があるものだということを改めて思いました。

こうして基本計画を見てみると、文字にならない行間にも、この2年間で皆さまが話をしたひとりひとりのお声やお顔がよみがえってきて、このような形にまとめてくださった事務局の方々に本当に感謝を申し上げます。振り返ってみると、この協議会は私にとっても大変有意義なものだったと思っています。函館は教育だけでなく、様々な問題が山積しているというお話から始まって、そこに手立てを打つだけのお話ですと、ここまで委員の方々のモチベーションは上がらなかったのではないかと考えています。問題を明らかにしたうえで、それを課題であるとポジティブに捉え、函館への愛着、優位性や強みを活かしながら、理想を

追求するという方向性で話し合いがもたれたからこそ、前向きに作り上げることができたのではないかと思っております。

私自身は幼稚園から小学校、中学校、高校、大学と勤務していますから、この協議会の中での縦の接続というところに必要性を非常に大きく感じていたところ、このように学習指導要領の改訂に対応した内容となりましたし、特に、担当している幼児教育の価値をきちんと文言に落とし込んでくださって、計画の中に位置づけてくださったことが非常にうれしかったです。

私自身の反省として、時として事務局の管轄以外の部分に焦点を当てて話をしてしまったことがあげられます。しかし今後、子どもを前にした時には、「管轄ではない」と言わず、事務局の方がおっしゃるように関係部署で連携していただければと思っております。

道路を作った人が、その道路を眺めて「自分たちが作った道路だ。」「ここは自分が石を積んだところだ。」という話をするのと同じように、この計画を見た時に、ここはこういうふうに話し合ったということを感じていきたいと思います。ありがとうございました。

(田中会長)

ありがとうございました。中村委員お願いします。

(中村委員)

2年間の協議会について、函館の教育のあり方について何をどう考えるのか不安な部分と、現役でPTAに関わる親の一人として、自分にできることを、という気持ちでスタートしました。協議の中での役割を果たすため、今までの自分の経験に、これまで交流してきたPTA会員の皆さまの意見を取り入れて、難しいことはわからないけれど、親としてはこんな函館になればいいなという思いを込めてきました。2年間のこの協議会は、私にとっては毎回緊張と責任と達成の3点セットでしたが、様々な立場で参加された委員の皆さまとともに、函館の教育のあり方について協議してきた内容が一つの形になることがとてもうれしく誇らしいです。これからの函館の教育について、今回完成するものがすべてではないかもしれませんが、私たち委員と毎回ご苦勞された事務局の思いが詰まった内容なので、一人でも多くの市民の皆さまに目にしてもらえるよう、まずはアピールしてほしいと思います。そしてそのことによって、函館がめざす方向性に共感し、賛同した人たちから、自分が持っている知識や経験などを生かした教育への協力の連鎖が始まり、子どもからお年寄りまで、年齢や性別に関係なく学び合えるまち・函館になっていくと思いますし、そうなって欲しいと思います。2年間ありがとうございました。

(田中会長)

ありがとうございました。竹内委員お願いします。

(竹内委員)

私は経済界の人間なので、教育の視点というよりも、どうやって函館に良い人材が一人でも多く残るかという視点から考えた部分が多かったと思います。最初の方の議論で出ました、働く場が少ないために人材がどうしても函館から出ていってしまうということが多いということについて、今、私が考えているのは、AIが進展し、この先なくなる職業と生き残る職業というのがあるとしたら、生き残る職業を見定めて、子どもたちが小さい頃からそういった職業に触れ合う機会があればいいということです。芸術家やスポーツ選手、研究者など、AIが進展してもこの先ずっと産業として成り立って、それなりのお給料をもらえるような職業の方から子どもたちにお話をさせていただく機会があるというのは非常に有意義なことだという話をさせていただこうと思っていたところ、出張等が重なって欠席することが多く、話す機会がありませんでしたが、計画を見るとそのような部分も入れていただいております。良かったと思っています。

子どもたちが函館への愛着をもつ部分については、はこだて検定などを通じてできる範囲のところで私どもも頑張っていきますので、皆さまのご支援よろしくお願いします。

(田中会長)

ありがとうございました。絹野委員お願いします。

(絹野委員)

最初に教育委員会の方から参考資料をたくさん提供していただいて、これが非常に有効な働きをしたと思っています。それと、素案ができるたびにお越しいただいて、事前に資料と説明をいただいて、そのおかげで短い時間で検討することができたのではないかと考えています。ご足労いただいたことについては大変申し訳なく、また感謝をしているところです。

勝手なことを随分私どもお話しましたけれど、根拠に基づいた修正であることがはっきりしておりますので、どこに出しても恥ずかしくない、しかも最終の段階では非常に明確で分かりやすく端的に表現されたと思っています。結果的には、会長さん副会長の進め方が大変良かったので効率的に進めることができたと思っています。それと、やはり素案を作る教育委員会さんは大変苦労されたでしょうし、その素案に基づいてここに提出するまでの間にかなり検討していただいたということがよくわかる、そういう2年間であったと思います。

せっかく素晴らしいものができましたので、函館の教育の現場あるいは函館市全体でこれが活かされて、そして子どもたちのために函館市のために役立っていただければ大変ありが



たいと思っております。

(田中会長)

ありがとうございました。井上委員お願いします。

(井上委員)

昨年より、各分野でご活躍されている方々と協議会に参加させていただきましてありがとうございました。私は毎回会議に出て、たくさん勉強をさせていただきながら参加していました。これからも函館の多くの方々から、函館の教育の力で成長できてよかった、やっぱり函館が好きだ、と思ってもらえるとうれしいです。私自身も一人の母親として、教員として、これからも生涯を通じて学び続けていきたいと思えます。

最後になりますが、教育委員会の方々にはとても大変な資料作りや丁寧な説明など、本当にありがとうございました。

(田中会長)

ありがとうございました。中島委員お願いします。

(中島委員)

この協議会ですが、幼稚園から小学校、中学校、それから高校、大学と、また、商工会議所や社会教育関係者の皆さま、いろいろな方がいろいろな立場で参加しており、学校の現場では気がつかないような視点や、もっと大きな視点から物事を考えていらっしゃることがわかり、私も非常に勉強させていただきました。

特に印象に残ったことは、初年度に話し合った、函館の教育がめざす人間像や基本目標の部分です。随分いろいろな意見が出ましたが、最終的にこういうスッキリとした形になって、これをベースに分野ごとによくまとめた体系ができたと思っています。地域の中にある高校ですので、やはり函館市とともに歩んでいきたいと思っております。本当にありがとうございました。

(田中会長)

ありがとうございました。山田委員お願いします。

(山田委員)

北海道教育センターで行われた第1回の会議の最初の自己紹介で、函館に少しでも恩返ししたいという、今、思えば、大それたことを言っておりました。この2年間で皆さまのい

ろいろな意見を聞くことができたということは、非常に大きな経験だったとっております。

先日行われました北海道小学校長会のサブテーマに「ふるさとの地から世界を見つめ、新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」という文言があり、今回できた計画の人間像の中にも同じような言葉が入っていると思いながら改めて見ておりました。子どもたちには、函館から出てそして函館に戻ってきてほしい、仲間を連れて戻ってきてほしいと思います。戻るためにもきちんと小学校、中学校で、函館にいる間に函館の良さを伝え、いいところを学んで、そしてふるさとを愛する気持ちを高めてほしいと考えています。

今日、自分の最後の個人調書を書いておまして、大学を出てから37年間のうち29年間函館でお世話になりました。大学を出て2年間、それから教諭時代に渡島へ4年間、そして校長になってから2年間、その時々で函館を外から見ることができたことが、非常に大きな経験だったとっております。教員としての最後の年に次の世代に残すものに関わることができたと思うと非常にうれしく思っております。ありがとうございました。

(田中会長)

では、毛利副会長お願いします。

(毛利副会長)

お別れはさみしいものですね。皆さま本当にお疲れ様でした。先ほど絹野委員からもお話がありましたが、この2年間で、事務局の方が次の回をどう進めようということでも身を粉にして奔走して歩いていた様子が一番印象的でした。

1年半前、去年の春に声をかけていただいた時は、はっきり言って荷が重いと思っておりました。始まってみると一層荷が重いと思っておりました。ましてや、副会長として会長をサポートできるのだろうかと思いつつながら2年間過ごしておりました。最初はとてつもなく重いものを抱え込んだような気持ちで、先ほど中島委員のお話にもありました函館の教育がめざす人間像や基本目標に取り掛かっていましたが、この計画は教育委員会所管事項に関するものであると聞いた瞬間に頭の中がさっとクリアになりました。

逆に言えばちょっと難しいかもしれませんが、この計画は教育委員会としてやることであり、実は、他にも施策がありますという、函館市の施策が一体となったものを示していただければ、より市民にとって分かりやすいものになるのではないかと感じておりました。私たちは協議会にいるので、この計画は、ここからここまでだという意識が働きながら議論ができたと思えますけれど、初めて目にする方の立場に立った示し方をお願いしたいと、ここで仕事に携わった人間として思っております。

私がこの計画の中で気に入ったところは、函館への愛着、というこの一言です。人と人と

の関わりやつながりはどうしても理屈ではいきません。うちの学校の経営方針に「人間っていいな」という言葉を入れており、論理的ではないのですが、人と人とはそういうところがあってしかるべきだと思います。ですから、愛着という言葉が、私にとってひきつけられる基本目標です。

本日は中学校で数学の研究授業を行っておりまして、この頃は盛んにグループによる学習を行うのですが、函館の子どもは非常に人懐っこいと思っております。教育長が合同校長会議でおっしゃっていましたが、それを後押しするような言葉を聞くことができたので、これは間違いないなと思っております。他の地域では、子ども同士が教え合い学び合うというのがなかなか難しい。しかし、函館の子どもは、いとも簡単にやってしまいます。これは何かといえばやはり愛着、人懐っこさ、人の良さ、そういうことに起因しているのではないかと思います。そのように育つ素地はあるけれど、もう少し学力が伸びてほしいなと思っておりますので、もう少しはっぱをかけて頑張っていきたいと思っておりますが、悪いところ、足りないところばかりではないので、このような函館の空気、函館の良さをどんどんアピールしていきながら、合わせてそういう子どもの良さを発信していきながら、市民と一緒に函館の教育を考えるようにもっていければ良いと思っております。

最後になりますが、個人的に非常に気になっているのは、ここでは少子高齢化とまとめましたが、これは人口減少そのものですし、函館ばかりの問題ではありません。日本の大きな問題ですし、この計画が終了する2027年には非常に厳しい状況になっているだろうと思っております。ぜひ、途中でそのことも意識しながら、この計画をベースにして函館の教育が進んでいくことを願ってやみません。いろいろなお立場の方々から意見をいただいたり、意見交換ができたり、最初は気が重かったのですが後半は楽しく過ごさせていただきましたし、好き勝手なことを申し上げて申し訳ございませんでした。ありがとうございました。

(田中会長)

ありがとうございました。私が話したかったことの90%ほどは毛利副会長から話していただきましたので、短めにお話させていただきます。

毛利副会長がおっしゃった函館への愛着の部分も好きなのですが、私は特に、その前段の人間像の「創造」にあります「世界に目を向ける広い視野をもって、自他の人生を豊かにする新たな価値を創り出し」という部分が好きです。私は大学に勤務していますから、そういう部分を背負っています。これをどれだけ果たすることができるか。私は大学人の一人としてこのお仕事をお引き受けさせていただいたのですが、あと2年で退職ですから、地元のこの街に貢献できる良い仕事だと思い、非常に楽しみながら会長をやらせていただきました。

それから私の個人的な思いもありまして、函館の人口が30年後には半分になってしまうというシミュレーションがありますが、私の子どもも二人とも道外に出てしまい、日本を離

れた子もいます。その子どもたちが戻ってきた時に函館を安心して子どもを育てていくことができる街にしておかないと、私は何をやっていただくと責められると思います、そういう気持ちでやらせていただいて、良いものができたと思っています。

そして毛利副会長が最初におっしゃっていましたが、我々の協議のテリトリーは役所の範囲です。しかし、函館の教育がめざす人間像について、私どもはその範囲を上回るような議論を行ってきました。その成果として、このような自立・共生・創造という視点が出てきたわけです。実際に教育を作っていくのはだれかということだと市民だと思います。PTA、保護者として教育を支えていくという、厚いベースとしての市民の意識がなければなりません。教育を支える市民、子どもの教育に関わるすべての人が見ることができる自立・共生・創造という1つの指針が出てまいりましたので、10年はもつ計画になっただろうと思っています。2027年ですね。ちなみに私は72歳になっていますので、職業人としては終わりになりますので、それまでもっていただければいいと思っています。

本当にありがとうございました。たくさん助けていただきましたことを厚くお礼申し上げます。それでは以上でございますので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

## **(2) その他**

(事務局)

閉会に先立ちまして、教育長から一言お礼のご挨拶を申し上げたいと思います。

《教育長 挨拶》

(田中会長)

それでは第6回協議会、また本協議会を終了したいと思います。

ありがとうございました。

## **3 閉会**